

□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。外部評価の結果

事業所名 グループホーム アネシス

日 付 平成18年10月18日

評価機関名 特定非営利活動法人
高齢者・障害者生活支援センター

評価調査員 ① 介護支援専門員・介護福祉士
② 介護支援専門員・管理栄養士

自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)

評価項目内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)

事業者のコメントを見る
(評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります) ※

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

- ・食事については法人の調理施設との連携と週に1回だが共に作る食事作りの機会をつくり、食を楽しんでいただいている。
- ・ハード面のハンディを法人全体の機能を活かして環境改善の取り組みがみられる。たとえば、クラブ活動、地域との交流、認知への理解、医療連携等、他事業所との協働にて利用者がイベント等に参加しやすく考慮されている。
- ・入所者は笑顔で会話がなされ、穏やかで落ち着いたライフスタイルを維持できている。

職員も利用者のペースやADLをよく理解し、寄り添う努力をしている。

- ・地域との交流や地域が施設への理解を深めるといった点については、開所して10年というキャリアをもとに地域行事(運動会、祭り等)の参加や法人が主催する認知に関する研修会等の開催などにより理解の拡大がされてきています。

特に改善の余地があると思われる点

昨年度における要改善についてはそれぞれの工夫において改善されていました。心がけや思いについては前向きであるが、「認知」という背景を考慮されたプランや家族とのやりとり、本人の非言語的表現を理解した記録などがあるときにすばらしいケアが期待できるように思える。

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持		○
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人の力と経験の尊重やプライバシー保護の為に取り組んでいるものは何か。		
	その人を活かした経験の尊重、プライバシー・認知に対する理解等、法人内で研修等を行い、介護員の資質向上を目指している。		

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か。		
	・職員は明るく、あたたかいケアを心がけている。		
	・利用者が笑顔でいれるように穏やかな会話を心がけている。		
	・第二の家になるように家庭的雰囲気に住み慣れた生活の場にしたいと考えている。		
	・地域の環境を活かし、ハード面の不便さを克服するように外出支援等に努力している。(散歩、行事参加、買い物等)		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり	○	
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。		
	憩の場所の確保に心がけ、季節のわかるもの(植物、今回はきのこ)を展示している。また、トイレの前にはソファーなどを用意して構造上の不便さを克服する努力がなされている。		

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	緊急体制のマニュアル化や年間目標等を計画して、それに向かって事業展開できるシステムがある。		